

## 日本 ー復興、そして新生への道ー

日本国首相 菅直人

3月11日、14時46分。我が国は観測史上最大規模の地震に見舞われ、その大災害からの復旧・復興に向け、国民の総力を挙げて取り組んでいるところです。今回の地震・津波による死者・行方不明者数は外国人の方々も含め、27000人以上にのぼります。

3月11日以来、日本は、国際社会及び世界中の友人からの支援によって強力に支えられています。日本国民を代表して、130以上の国々、40近い国際機関、多くの非政府組織及び世界中の人々から受けた多大なご支援と連帯の表明に対し、心より感謝申し上げます。日本国民は、世界中の友人が示してくれた「絆」に深く感謝するとともに、「まさかの友は真の友」という言葉を強く実感しています。

貴国スペインよりは、フアン・カルロス国王陛下、政府を代表してサパテロ首相より心からの弔意と連帯の意を頂戴し、また上下院におかれては、スペイン国民を代表して連帯宣言が採択されました。更に、首都マドリッド市を始め多くの地方自治体において、我が国との連帯集会の開催や議会宣言の採択の他、市民の皆様がイニシアチブによる千羽鶴を作成し被災者への募金を呼びかける集会やコンサート、サッカー試合など様々な形での慈善集会が開催され、連帯の意を示して頂きました。また多数の民間企業や市民の皆様より励ましの書簡と被災者支援のための募金を頂戴しました。これらの励ましと支援に、私と日本国民は本当に勇気づけられており、スペインからの温かい思いは我々日本国民の心に深く届いています。これらすべての支援に心より御礼申し上げます。

福島第一原子力発電所において、国際的な原子力事故の評価尺度で最も深刻と評価された事故が起きたことは大変遺憾に思い、極めて重く受け止めています。現在、私は、一日も早い事態の收拾を目指し、陣頭指揮に立ち、文字通り政府の総力を挙げてその解決に取り組んでいます。私は原発事故がもたらす危険と戦うべく、第一に、周辺住民をはじめとするすべての人々の健康と安全を最優先に考え、第二に、しっかりとリスクマネジメントを行い、そして第三に、起こりうるあらゆる事態を想定し対応体制をつくる、という三つの原則に立ち、利用可能なすべての資源を動員し対応しています。例えば、海水への放射性物質の流出の件については、その防止のためにあらゆる努力を行っています。原発事故に伴って放射性物質が検出された食品等については、科学的基準に沿っ

て、安全を確保するため万全の措置を取っています。我が国は高い予防的安全基準を設けており、市場に流通する日本の食品・製造物の安全性は確保されています。今後も、国内はもとより海外の人々からも安心して頂けるように、この原発事故に関する情報については、日々刻々の変化も含め、高い透明性をもって提供して参りたいと思います。

今回の原発事故に関しては今後、速やかに徹底的に検証を行い、そこから得られた情報と教訓を世界と共有し、このような事故がなくなるよう原子力の安全性向上に向けた国際的議論に積極的に貢献していく所存です。他方、エネルギー政策全体の観点からは、高まる世界のエネルギー需要と深刻化する地球温暖化問題に向けての温室効果ガスの排出削減の必要性の両面をにらみ、同時並行的にクリーン・エネルギーの開発・利用の抜本的推進を含め、世界が直面するエネルギー問題の解決モデルに資するビジョンを、新生日本から世界へ提示していきたいと考えています。

今回の大地震と大津波は、我が国が戦後直面した最悪の自然災害であり、この災害に見舞われた東日本の復興は決して容易ではありません。しかし、私はこの災害を日本の新生のための重要な機会と捉え、「自然災害に強い地域を築く」、「地球環境と調和するシステムの構築」、「人に優しい、弱者に優しい社会の構築」を三本柱として、東日本から世界に、最先端の社会システムを示すべく全力で取り組みます。

我々日本人は、かつて戦後の焼け野原からその底力で立ち上がり、目覚ましい復興を成し遂げ、今日の繁栄を築きました。今回も、この国難に必ず打ち勝ち、復活し、新生し、新たな国を創造していきます。そして、再び国際社会の発展に貢献する国となることが、国際社会が示してくださった「強い絆」と「温かい友情」に応える最高の返礼だと信じています。そのために、未来の夢を先取りする「未来志向」の復興を目指し、懸命な努力を続けていきます。海外の皆様には引き続きご支援とご協力をお願いします。ありがとうございます。

(了)